

日 時：2007 年 6 月 29 日（金）18：30～20:40

会 場：練馬ボランティア・市民活動センター会議室

1. 常務挨拶

- ・ 昨年度は 3 回開くことが出来た。計画 2 年度目の報告をさせていただきたい。限られた時間のため、説明については簡潔にし、意見交換を中心にしたい。

2. 本日の会議の進め方について

- ・ レジユメのおよび進行の確認

3. 平成 19 年度の取り組み状況の報告（各部署の重点事業）

参考資料：「平成 19 年度重点事業の取り組み状況」

(1) 各部署説明

庶務係 白百合福祉作業所 かたくり福祉作業所 地域生活支援センターきらら
ほっとサポートねりま

(2) 質疑応答

- ・ きららの運営委員会も兼ねているので皆さんの意見を聞きたい。職員の体制が悪い中、個別支援が深まりつつあり、地域のボランティアの人達がもっと入れたらいいなと思っている。これはスタッフ体制の悪さのカバーでなく、地域のメンタルヘルスの予防の点で関わってもらいたいのではないかと考えている。

- ・ 白百合の日常作業においてボランティア経験の無い人たちをどう受け入れるか、とボランティアセンターの「これからボランティア」とどう連携するか、とか、かたくりのボランティア募集のやり方など、「つながりのある地域をつくる」という意味でどうやったらいいか、考えられたらどうか、と思う。

白百合福祉作業所は昨年 11 月、ボランティアセンターと共同してボランティア講座を開催している。ボランティアセンターと連携してボランティアの方の受入れをしている。参加者が今、休日余暇支援事業でボランティアとして入ってくれているなど、連携が取れている。

かたくりも強化支援という意味でボランティアコーナーの協力を得てやっている。

- ・ きららは、商店会との結びつきで実際に入っている

きららは 11 時間ずっと支援をしている。電話相談がかからない、など絶えずいろいろなことがあり、何かボランティアに協力いただけないか、と思っているが、学習をしてないと入れないこともある。支援する側、される側の区別をしたくない。初めてきた人に対してメンバーが何でも聞いていいよ、という名札を付けてボランティアをしてくれた。特別に市民の方をボランティアに仕立て上げるのはしたくない。きららで学習の場面を作るのは今の状況では大変なので、社協の中でやってもらえたらいいな、と考えている。

- ・ 計画を作る前と後で何か変わっているところはあるか？

計画があるから特別に・・・というわけではないが、PT などがあることで、横のつながりが取りやすくなることはあった。ボランティアを希望した人の件で、PT の会議の後に顔を見ながら白百合・練 VC・大泉コーナーで相談することができたこともあった。

これまではきらら・在宅・ボラセンが一緒に行った「精神保健福祉講座」などテーマに関心のある人向けに事業を行っていた。計画があることで、白百合という拠点の近隣の人を対象にボランティア講座や成年後見講座を実施するなど、地域を対象にやるという視点の違いが生まれた。

- ・ これからの地域に根ざした作業所の役割はどうなのか、きららは元々作られてくる過程で地域とのかかわりがあったと思うが、市民が全員わかるとは言えないという状況の次の段階に来ているのではないかと、思う。
- ・ 機能として地域生活支援センターとしての役割をしている所は小さい自治体などではあるが、地域のメンタルヘルスなどは息の長い事業なので即効性は難しい。しかし、いろんな意味で意識化をすることはできると思う。社協の中での相談で心の病を持っている人は多いので、社協のどこかで芽としてあると

思われるので、たとえば、理解という意味で専門性の高い人を必要とされるのであれば、保健の知識をどのようにプログラム化するか、とか、社協内でもプログラム化して連携を取りあっていけば、いいものができるのではないかと。それら行った内容を積み上げていけばいいものができる。

行政も今、検討中で、同じ相談をしても各部署で違う対応が出ている。そこを相談されているところなので、バランスのある相談対応ができるように考えている。勉強会の仕組みを考えている。きららでも勉強会を立ち上げて行政の人も入ってもらって仕組みづくりをしている。相談結果が何でどこにつながっているのか、など。これは民生委員さんも対象にするなど、形に見えるようにしていこうとしている。これから社協内部だけでなく、他の相談機関とも一緒に相談の充実を検討したい。

- ・メンタルヘルスを出したのは、職員が不足だから、ボランティアを、という補完のように見えるのでそれだけでない、ということをお願いしたかった。ボランティアが入ることで理解が深まり、地域のメンタルヘルスにも役立つという意味で意見を言いたかった。
- ・要約筆記のグループで企画して関心のある人を募集しても誰も来ない。しかし、区報などを見て、要約筆記を必要としている人を探して押しかけボランティアをやった。自分たちで企画するだけでなく、自分たちで出てやっていくのもいいかな、と思った。

4. 推進事業PTの活動予定 参考資料「PTによる検討課題」

* 委員会とPTの違い

委員会とあるのは継続した審議が必要な場合で、PTとあるのは期間限定の場合と捉えてほしい。

(1) 各PTの取り組み課題と達成目標の説明

相談業務課題調整委員会 広報委員会 拠点PT 人材育成PT 財源PT
実習生委員会（実習生受入れ担当者委員会に名称変更）

(2) 質疑応答

* 広報委員会

- ・キャラクターはあったらあったでいいとは思いますが、あまりこれに力を入れてもどうかと思う。
- ・せっかく社協は全国にあるのだから、全国的に統一したものがあるといいのではないかと。あるのだが、やっていることが地味だから難しい。
- ・社協パンフは会員になってない人向けに渡すものだと思う。広い入り口としてのパンフだと思うが、「かたくり」「白百合」はどんな製品を作っているのか、と思っている。自主製品をパンフの中に入れてくれるとリアルになると思う。知人がお寺の清掃をやってもらっているが、そのような人たちにパンフを配布するのはいいか、と思う。社協の声かけにいいかと思う。
具体的にはホームページに自主製品を掲載している。仕事は無い日もあって困っているが、リーフレットでよびかけるといいな、と思った。単価のいい仕事がほしい、というのが正直なところなので、よびかけていきたい。
- ・自主製品をホームページに掲載するだけでなくネットで売るなど、本気でやらないと「売る努力が足りない」と言われそうだと思う。
- ・営業などは社協内部でやってもだめだと思う。委員会を作るなどしてもっと外部の人を入れてアイデアを出し合い、進めるのも検討すべきだと思う。

* 拠点PT

- ・石神井オアシス会議には先行事例としてネット関があるのだから、集めたお金がどうやって使われるのか目に見える動きがあるように展開したらいいのではないかと。
- ・リサイクルショップは基本的には収益が一番に考えているのか、それとも地域交流が先なのか。
社協の収益としてではなく、基本は利用者の作業種目として考えている。その上で地域との交流を広げていきたい。
- ・作りっこの家のような、地域の人がのぞきに來るような、ものを目指してほしい。
- ・ワークショップ石神井が実際にリサイクルショップをやっているが、近所の人がかっこう持ってきたり、買って行ったりしてくれている。
- ・ぶらぶらとくるのがいい。

* 人材育成PT

- ・ 全社協が人材育成のモデルを出しているが、OJT、OFJTなどそれぞれの段階で何が必要かが明記されているので、それぞれの研修デザインとマネジメントシステムが必要。あれも必要これも必要とあせらないようにしたほうがいい。

* 財源PT

- ・ 民協との協力体制という意味では民協にすでにたずねたのか？
まだ取れてない。
- ・ まだ自治会町会のあるところはなんとかやれるが、それができず、先細りしている。少しでもメリットがあるのか、などが無いと難しい。赤い羽根と歳末助けあいに関しては、また？という反応で合わせてやってほしいくらい。歳末は練馬区に還元できるということで赤い羽根よりはいい。
- ・ どこでも民生委員になってくれる人がない。民生委員さんには期待はするけど、支援をしていない、という状況で、ものすごくしんどい仕事になっている。活動をうまく支援する内容が入っていないとこれでは難しいだろう。また、会員になってどういうプラスがあるのか、などないとだめだろう。成年後見の説明はうちでやります、などこちらもやれることを見せないといけない。
- ・ 昔のように一種の名誉職でやるのではなくなってきた。
- ・ 3年の任期途中でやめられる方も多い。50代60代になると肉親の介護もあり、そこまで手が回らない状態。現役の勤労者をねらってアプローチしている。
- ・ お金を集めるのが目的ではなく、それを地域でどのように活かされるのか、が明確でないといけない。
- ・ NGOのお金の集め方は、われわれはこれを行っているんです、と目に見えるように写真などで見せている。社協はいろいろとやっているのぼけてしまう。全体でなくても部分的でもみせていけるといい。

* 全体を通して

- ・ ロゴマークを作ってキャラクターグッズとして売り出そうというのは可能性としてあるので、立体的に考えてはどうだろうか？区内の地区区民館と作業所と連動させてはどうか。各地区区民館には自治会・町会の役員が運営委員になっているので、積極的に関わってもらってはどうか。
- ・ 1つ目はヒットするといい。それをかたくり、白百合が作るのもいい。2つ目は地域として連携をいろいろと考えるのがいい。住んでいて見える範囲がいいだろう。目線は広く持つのがいい。
- ・ 計画を策定して2年目に入って、実際に今日しか意見が言えないわけではないと思う。事務局でPTなど進めているし、新しい課題に対して積極的に進めてほしい。評価を出すのは早いと思うが、12年前に策定した計画よりは前に進んでいるか、と思う。形としてはっきりでないまでも、やっている人たちは意識している。位置づけることや明確にすることが必要であった。後で思い出したことがあったら、事務局へ連絡をしてほしい。

5. 次回の推進評価委員会に向けて

- ・ 昨年、12月に開催したため、この時期が適切かと考えて設定している。次年度計画の時期でもある。
- ・ 次回にどのような報告をしてほしいか、というと、今日のような進捗状況と元気が出る事例が出るのもいいかと思う。より具体的に出していただけたらいいのではないかと。ぱっと見てわかるようなものは読まないで具体的な事例を見てやっていただけたらどうか。
- ・ しあわせ福祉ネット関の定例会で、関ボランティアコーナーがリーフレットを配って説明をしてくれた。社協の皆さんはとても控えめである。払って当然、という態度で接してもいいかと思う。会議室利用している人にも会員でない人もいる。この金額は決して大きな金額ではないと思うので、会議室を利用している人はみんな会員になるべきだと思う。そのぐらいの意識でないといけないと思う。
- ・ 強く言うのは裏づけがないといけないので、まだ組織的にそのような空気を作らないといけないと思う。今回言わなかったのに言うようになったのは大きな成果だと思う。
- ・ 関町と光が丘は区の施設なので、そのように説明はしづらい。
- ・ 利用料という意味で言った訳ではないと思う。

6. 次回の日程について

- (1) 日時：12月14日(金)
- (2) 内容：元気が出るような事例を中心に報告してほしい